

JICA 中国事務所ニュース

2009年6月

目次

【トピックス】

- ◎ 日中ハイレベル経済対話開催 1
- ◎ 「中国西部地域行政官研修プロジェクト」がスタート 2
- ◎ 中国感染症対策プログラム:プロジェクト形成調査 3
- ◎ 少数民族「イ族」の村の運動会 3

【ニュース】

- 北京大学で JICA の環境協力を紹介 5
- 英国サセックス大学一行の訪問 5
- 甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト終了! 6
- 2008 年度「中国留学生支援無償事業(JDS)」の 41 名留学生が出発 7

【帰・赴任者紹介コーナー】 7

【寄稿コーナー】 10

【人の動き・主要行事】 12

最近のトピックス

日中ハイレベル経済対話開催 ～JICA 協力も合意～

6月7日に、東京で日中の閣僚級による「ハイレベル経済対話」が開催され、日本側は中曽根弘文外相、中国側は王岐山副首相を代表とする両政府の協議が行なわれました。

これは、2007年12月以来、第2回目となるもので、国際経済の回復に向けた一致協力した努力や、世界貿易機関(WTO)の多角的通商交渉(ドーハ・ラウンド)の早期妥結を目指す点で合意しました。今回の対話では、JICAの協力に関連する分野についても合意されました。

まず、2008年5月に発生した四川省大地震に関連し、今年5月から開始された「耐震建築人材育成プロジェクト」の推進が歓迎されることが謳われました。

あわせて、国際産業関連表に関する統計支援に関する協力の推進と環境汚染損害賠償制度の構築についても協力が確認されています。

国際産業連関表とは、国際的な経済実態を数量的・構造的に分析するためのツールですが、これを日中間で整備することは、中国の経済統計の精度向上に貢献でき、また、日中間の貿易構造の分析のために大きな役割を果たすことができます。6月から始まる新しい案件「国際産業連関表作成による統計整備プロジェクト」では、約3年かけ、日中国際産業連関表作成の基本計画とプロトタイプ表の作成を目指します。

一方、環境汚染損害賠償制度の構築とは、中国で現在取り組まれている環境問題によ

る健康上の被害者への補償制度構築に対し、日本の経験を元に政策提言することを目的とするプロジェクトです。この「環境汚染健康損害賠償制度構築プロジェクト」は、間もなくJICAと環境保護部との間で3年間のプロジェクトとして開始される予定です。

JICA の案件は、このように両国間が合意した協力を具体化していくことに大きな意義があります。案件を成功させることにより、日中関係の礎を築くことに貢献していきたいと思えます。
(環境2班 大久保晶光)

「中国西部地域行政官研修プロジェクト」がスタート

中国では内陸部開発のため、2001年からの第10次五ヵ年計画の下で、西部大開発計画が推進されました。西部開発には高い資質を持った幹部人材の育成が必要であるという認識の下、2002年から3年間日本での国別研修が、2005年から2006年の2年間日本での研修と中国国内での研修を組み合わせたプロジェクトが行われてきました。本プロジェクトはこれに引き続き行われるもので、西部地域の中堅行政官を育成する目的で実施されたものです。

5月7日、初年度の訪日研修員が出発する前日に中国科学技術部で起動式が行われました。起動式には科技部政策法規及び体制改革司の翟副司長と国家發展改革委員会西部開発司の戴司長が出席され、新たなプロジェクトの開始に際し、決意を表明しました。

今回の訪日研修は北海道を中心とし、講

義と視察及び現場の関係者との交流を組み合わせ、より実践的に、日本の地域開発と地方産業開発にかかる取り組みについて理解できる内容としました。

研修を通じて研修員達は「北海道開発の歴史を学び、日本人と交流を深め、北海道の農村の発展を視察することができた。」「日本は環境が整備されていて、都市と農村の差が小さい。日本人は仕事がまじめで、礼儀正しい。」等の感想とともに、日本の経験を生かし西部地域の特色産業開発・育成に力を入れていく、ということを発表しました。

こうした研修を通じて日本に対する理解を深め、日本の経験を中国西部開発に運用し、西部地域の発展に貢献するだけでなく、日中の相互理解促進にも資する、すばらしいプロジェクトになることを期待しています。

(改革開放/ガバナンス班 林哲浩)



起動式には科技部翟副司長(左)山浦所長(中央)、国家發展改革委員会戴司長も出席しました

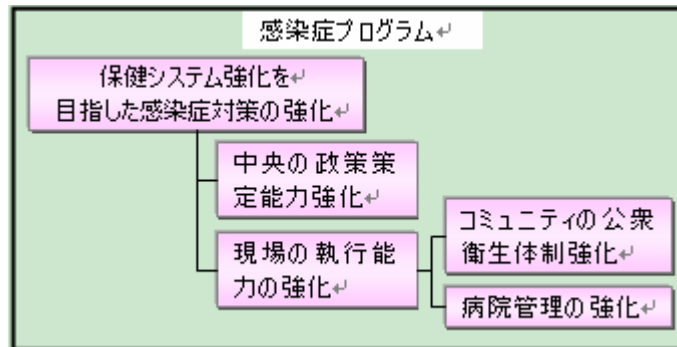


北海道大学の北倉先生による講義

中国感染症対策プロジェクト形成調査団が来ました

2009年3月、国务院より中国医薬衛生体制改革に関する通知が出されました。この通知によれば、5つの重点改革、即ち①基本医療保障制度建設の推進の強化、②国家基本薬物制度の基礎の建設、③基層(末端)医療衛生サービスシステムの健全化、④基本公衆衛生サービスの均等化の段階的な促進、

⑤公立病院改革モデルの推進を行うことになっており、これは技術・人材面で発展してきたものの格差が拡大しつつある中国の医薬衛生に関して、全ての人々が平等に医薬衛生サービスを受けられるよう、発展から面的拡大へ方向転換を図っているところと言えます。



また、政府レベルでも、昨今日中韓の公衆衛生(感染症対策や食品安全など)に関する協力強化が繰り返し確認されています。

こうした状況に当たって、JICAは対中ODA重点プログラムの一つである感染症対策の全体整理を行うため、2008年より何度か調査団を派遣しました。2009年5月、第三回調査団が訪中し、最終的な枠組みとその必要性などを確認したところです。調査団が整理した枠組みでは、中国の医薬衛生体制改革

の方向性を踏まえて、保健システム強化のための感染症対策の強化を目指すこととしました。具体的には、①中央の政策策定能力強化、②現場(コミュニティや病院)の執行能力の強化のための案件形成を進めることになりました。感染症の問題がますます脅威となっている今日、一衣帯水の日中が協力関係を築いていくことも狙いとしています。

(保健医療/社会保障班 桑内美智子)

少数民族『イ族』の村の運動会

■山の学校

四川省成都市から南西に500キロ、涼山イ族自治州昭覚県にある碗廠郷温嶺之江小学校。標高約3000mにあるこの学校は、先生2人、生徒41人、イ族の子どもたちが通う小さな『山の学校』です。

■ここにも協力隊

ここにもJICA青年海外協力隊の姿があります。土屋賢治さんと小林順子さん。普段二人はここからバスで1時間半の西昌市内で、村落開発普及員、日本語教師として活動して

います。活動の合間を縫って、毎週1回この山の学校へ通ってきては先生や子供たちと一緒に歌を歌ったり、歯磨きや手洗いの大切さを教えたりしています。

■今年で5回目

今月、この山の学校で「文化体育祭(運動会)」が開催されました。今から5年前、子供たちの学ぶ姿や学びの大切さを家族や村の人知ってもらうために先輩隊員が中心となって始めたものです。今では学校はもちろん、村の人たちや地元政府機関などを巻き込ん

での一大イベントに成長しました。

当日は生徒が描いたたくさんの絵が村の人たちを迎えます。この絵を描くことも隊員たちが始めたことです。「最初は紙の真ん中に



小林隊員と子供が夢中で綱引きをしています

■はみがきダンス

この運動会の中で子どもたちが楽しみにしている種目があります。それは「はみがきダンス」です。歯磨きの大切さをみんなに楽しみながら学んでもらうために隊員たちが考えたものです。

「運動会で『はみがきダンス』をすると決めた時の、子どもたちの嬉しそうな表情が忘れられません！」さらに小林さんは続ける…「今でもそのときの目の輝きを覚えています。」

空が近くに感じる青さ、どこまでも続く山々、それを映し出しているのか子供たちの目は本当に輝いているのでしょうか。



嬉しそうな顔で「歯磨きダンス」を

■きっと伝わるはず

「日本の協力隊に来てもらって本当に良かったです。見てください子どもたちの笑顔を！本当に感謝しています。協力隊員が帰っても、私たちがこの運動会を続けていきます。」あ

小さく描いていました。でも今は紙をいっぱいに使って、それもカラフルに書けるようになりました。子どもたちの成長を感じます。」これは土屋さんの言葉です。



土屋隊員の顔に満足な微笑み

■希望をもってほしい

北京から遠く離れたイ族の村。ほとんどの子供たちが日本はもちろん、北京や上海などの大都会を知らないで一生を過ごすかもしれません。ここに日本人がいたことすら忘れてしまうかもしれません。

「希望を持ってほしい」と二人は言います。子供たちの人生の中で、一瞬でも日本人と一緒に生活をしたこと。そして、学ぶことは楽しいということ、地域や家族への感謝の気持ちを忘れないこと、世界は広いということ、それをこの運動会や二人とのふれあいを通して少しでも学んでもらえれば、本当に嬉しいと言います。



青空の下で「心」も一つになりました

る地元関係者の言葉です。

日本から 4000 キロと遠くはなれた四川省涼山州昭覚県。ここでも日本人の伝えたかったものが息づいています。日本人と中国人が

一緒になって作り上げてきた山の学校の「運動会」です。子どもたちの成長と一緒に、その「心」も次の世代へと引き継がれていくこと

（ボランティア班 鈴木大介）

ニュース

北京大学で JICA の環境協力を紹介



熱心に日本 ODA を説明している大久保所員

北京大学で開催された「北京大学中日文化祭」で、5月17日に JICA 事業の紹介講座が開かれました。第2回目となる「文化祭」の今年のテーマは「環境」ということで、JICA に日中環境協力についての紹介の依頼があり、環境分野担当の大久保晶光職員が ODA に

よる中国への環境協力について、20名程の学生を前にプレゼンを行なったものです。対中 ODA の歴史と現在、中国の環境分野においてどのような協力を行なっているのかについて、具体的なプロジェクトを紹介しながらその内容を説明しました。質問応答の際には、日本が公害対策に熱心な理由や、ODA 広報のあり方について質問があり、活発な意見交換が行なわれました。

ある中国の学生から、これまで日本の対中 ODA について知らなかったけれど、今回その意義がよく理解できたというコメントをもらいました。規模の小さなイベントでしたが、その意義は決して小さくないと感じました。

（環境2班 宗雪）

英国サセックス大学一行の訪問



学生達から次々の質問を熱心に答えている松本次長

6月3日、英国のサセックス大学開発学研究所 (IDS: Institute of Development Studies) の学生9名とコーディネーターが JICA 事務所を訪れました。2週間の予定で中国を訪問し、

中国の経済発展や世界に与えているインパクトについて、大学や研究所などとの意見交換をしているそうです。JICA 事務所へは世界最大級の援助機関として、これまでの中国への協力や今後の方向性について話を聞きたいとの目的で訪問されました。

さすが教育の国イギリスという感じで、学生達の国籍は多様です。中国、スイス、カナダ、トルコ、ナイジェリア、そして日本。バックグラウンドも、民間企業、NGO、役所や公的機関など。

興味の点も様々で、JICA の協力について説明を始めると、あちこちから熱心な質問が飛び、1時間半ほどの時間はあっという間に過ぎてしまいました。あとで聞いてみると、大

学のコースを終了したあと援助機関への就職を希望している人も多いそうで、JICAの動向にも結構興味があったようです。ストレートな質問にざっくばらんに答えて、理解してもら

えたのかどうかよく分かりませんが、最後は皆で記念撮影まで行き満足げな表情で帰ってもらえたので、一安心しました。

(業務次長 松本高次郎)

甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト終了！

2009年6月、甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクトが終了を迎えます。

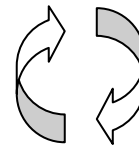
本プロジェクトでは、2006年から3年間、①健康教育やエイズ予防介入活動の促進、② HIV/エイズに関するカウンセリング・検査の規範化を進めるとともに、これら活動を通してエイズ対策活動に関する企画・実施・評価といったマネジメント能力の向上、関連組織との連携体制の強化を達成しました。

こうした大きな成果を上げた背景の一つには、プロジェクトサイクルマネジメント(PCM)手法を理論及び実践を通して、甘肅疾病予防コントロールセンター職員のマネジメント能力を徹底して強化したことが上げられます。HIV/エイズ対策分野に限らず、財政面・人材面で発展目覚ましい中国において、国家政策・方針を如何に現場の状況に合わせて応用するかということが重要なのではないのでしょうか。現場スタッフが自分達で課題を分析し、適切な対策を企画・実施するとともに、如何に効果が上がったのか評価することが出来れば、現場においてより効果的な対策が採れるようになることを本プロジェクトでは証明したと思われま

す。
専門家の皆様、お疲れ様でした！
(保健医療/社会保障班 桑内美智子)



PCM 研修の様子



理論と実践
の繰り返し



アウトリーチによるエイズ検査の様子

2008年度「中国留学生支援無償事業(JDS)」の41名留学生が出発



41名の無償支援留学生が出発しました

6月3日、2008年度「中国留学生支援無償事業(第VII期)」41名の英語コースの留学生が日本へ旅立ちました。留学生たちは中央官庁及び地方政府の公務員で構成されており、書類選考、現地運営委員会(日本大使館、商務部、JICAで構成)による総合面接、また受入大学の教官による専門面接を経て合格に至りました。

日本への出発に先立ち、6月1日から2日間、オリエンテーションを行いました。また6月1日の夜には在中国日本大使館の主催で壮行会が開かれました。席上、留学生たちは

ぜひこの貴重なチャンスをも有効に利用して充実した留学生活を送り、帰国した後は中国の国家建設に貢献するとともに日中両国の相互理解促進のためにも努力していきたいなどの感想を述べました。

41名の留学生たちは日本で法律、公共政策、経営、国際関係、経済など多分野な専門について学習します。彼らはそれぞれ広島大学、国際大学、国際基督教大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、名古屋大学、新潟大学、一橋大学、早稲田大学、筑波大学の大学院で2年間ほどの留学生活を送ります。

2002年から開始された本事業はこれまで311名の留学生を日本に派遣し、うち199名が修士号を取って帰国しました。帰国した留学生は現在、中国の中央官庁及び地方政府で活躍しています。(相互理解班 周妍)

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 長谷部均

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業プロジェクト チーフアドバイザー

3年前の10月頃だったでしょうか。人事担当者から「海外勤務」の意向打診があり、特に熟慮することもなく「ご下命とあらば・・・」と殊勝な返事をしたのが運の尽き。翌年の6月1日、私は14ヵ所目の勤務地として北京に赴任してきました。何だか遠い昔のこのように思い出されます。

それからの25ヶ月間、仕事と私生活を通して見てきた中国は、爆音を響かせながら近代化への突進を続ける姿がある一方、それとは全く無縁に中世然とした農・牧業地域があり・・・その両極端な状況を見るにつけ、こ

の国の底力や可能性とともに、一抹の危うさのようなものをも感じざるを得ませんでした。

しかしながらこの間、人並み以上の使命感や責任感を持ち合わせているというわけでもない自分を棚に上げ、私が本部や事務所のプロジェクト担当者に浴びせた厳しい言葉は、野球で言えばビーンボール、サッカーならばイエローカード気味のバックチャージとも言えるものだったのでと少々反省しております。

さて、現時点では、私の次の勤務地がどこになるのかは不明ですが、この国で得たよい

経験と思い出だけを大切に持ち帰り、老骨に鞭打ち、晩節を汚すことの無いようにしなけ

ればならないと考えている今日この頃です。

(2) 長期専門家 飯島智志

甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト 業務調整員



2006年6月に開始された「甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト」も、3年を経過し2009年6月に終了します。私は2007年7月の着任で約2年間の任期ですが、成果を見届けられる時期に参加でき、忙しくも非常に充実した日々を過ごせました。また、6年ぶりに大西北地域という乾燥し空気の薄い地

域での生活を楽しむことも出来ました。以前はお隣の寧夏回族自治区で5年間の林業プロジェクトに参加してきましたので、合計7年間の「西北生活」となります。

プロジェクトは、「HIV/エイズ低流行地域における感染予防・普及啓発活動」として健康教育という方向性を提示し、その下で多様な活動が展開され、最終的にモデルとなる5つの活動が編み出される成果を上げました。更に、このような活動を創り出せる優れたカウンターパートが育成され、彼らの成長過程から私自身も大変多くを学ぶことが出来ました。今後チャンスがあれば、このプロジェクトから「学び」を生かせる新しいプロジェクトに参加できたらと希望しています。

(3) 鉄道技術個別専門家 君塚和夫



和諧号 CRH2型(北京南駅)

中国は経済発展に必要な国民の交流拡大と省エネルギー・環境保護の両立が強く要求されている状況にあり、各種交通機関の中で最も温暖化ガスの排出量が少ない鉄道、とりわけ省エネルギー・環境保護型の高速鉄道網を交流拡大の受け皿として整備することが焦眉の急となっています。

高速走行を行う鉄道の整備は中国の鉄道史上初めてのことから、高速鉄道の整備運営について経験と優れた技術を有する日本から騒音・振動等の対策を含めた技術指導を行い、高速鉄道が環境に与える負の影響という整備運営上の支障を取り除きつつ、温暖化ガスの排出抑制への貢献という本旨に従って高速鉄道の整備運営が円滑に進められることを目的に中国全土に出向いて技術指導をしてきました。

2012年までに1.3万キロの旅客専用線と都市間鉄道が建設される計画です。中国鉄道部は今後も、日本の高度で安全性の高いシステム技術、効率的で合理的な設計・施工のためのノウハウ、新幹線を建設・保守する人材教育、および環境保全型の高速鉄道整備の技術移転を望んでいます。

(3) 長期専門家 菊池由則

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業プロジェクト チーフアドバイザー



5月22日に「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」のチーフアドバイザーとして2年間の任期で着任しました。

本プロジェクトは、中国政府が定める「全国牧区草原生態保護水資源保証計画」の重点対象地において、「人工草地における節水灌漑施設整備計画」策定手法を確立すること

を目的とし、2007年から4ヶ年の予定で実施されています。具体的には、当該整備計画策定マニュアルの作成、内モンゴル自治区及び新疆ウイグル自治区に設置したモデル地区での整備計画の効果の検証、研修コンテンツの作成と研修を行うこととしております。

個人的には、12年半ぶり、2回目の中国勤務で、主な C/P である中国灌漑排水発展センターとは2回目の技術合作になります。今回のプロジェクトは前回と内容が異なりますので、新たな気持で精一杯努力する所存です。皆様のご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

(4) 長期専門家 吉田正秀

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業プロジェクト 専門家

5月22日に「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」の節水灌漑専門家として2年間の任期で着任しました。

これまで、モザンビーク国とセネガル国における調査の経験はありますが、中国での仕事は初めてです。よろしくお願い致します。

草原といえば、中国では年間約 200 万 ha の速度で砂漠化が進行しているといえます。東京都の面積がおよそ 21 万 ha ですから、その約 10 倍、相当な面積です。このプロジェクトは、長期的には、荒廃が進む草原の保護（イコール砂漠化防止）と、農牧民の生活の保障を目指すものですから、とてもやりがいのある仕事を頂けたと感謝しています。



今回の赴任では妻と子供（男5歳）も一緒に連れてきました。休日は、家族とともに色々なところに出かけ、さまざまな歴史文化に触れ、また、おいしい料理をいただくのが楽しみです。

(5) 長期専門家 土岐典広

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業プロジェクト 業務調整員

このたび、「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」の業務調整員として着任しました。

私は、99年から01年まで青年海外協力隊隊員として湖南省長沙市に派遣され、その後、民間企業の社員として浙江省に2年と上海に2年の4年間駐在員を勤めていました。

これまでの経験を活かし、プロジェクトチームの菊池チーフアドバイザーと吉田専門家のサポートに努め、円滑に業務を進め、さらなる成果をあげられるよう活動をしていきます。皆様のご指導、ご鞭撻の程を宜しく願

い致します。



寄稿コーナー

(1) 学生に料理を作ってもらおう



学生達に日本語を教えている一関隊員



笑顔で日本料理を体験

■安徽大学で日本料理を

私は今、安徽省合肥市にある安徽大学日本語科で日本語を教えています。

学生たちとは、一緒に運動したり、学生寮に遊びに行ったりして交流しています。最近やっていたのは、「学生に日本料理を作ってもらおう！」企画です。私が学生に日本料理を作ることもあるのですが、学生たちの素の面が見たいなと思って企画してみました。

■買出しへ

学生は授業が詰まっています時間がないので、必要な材料のメモをもらって私が買い出しに行きます。この買出しがいい勉強になりました。いつもスーパーで素通りしていた食材を初めて買ったり、食材の中国語名を教えてもらったり、新しい発見がたくさんありました。

■料理中の我が家では

料理は学生たちにすべておまかせです。料理中我が家はかなりにぎやかになります。

みんな日本語を使うことを忘れて中国語でわーわー言いながら味付けの相談をしていました。

料理中、学生たちの授業とは違う一面が見られて楽しかったです。全体を仕切る子、下準備に徹する子、みんなが料理しやすいように洗いや片付けに徹する子、さっきまで雑誌を見ていたのに炒める時など楽しい時だけ現れる子、などいろんなタイプの子がいました。授業中はみんな様にまじめでおとなしいので、こういう姿が見られて新鮮でした。

■私の役割

合肥に来て約1年が経ちましたが今後、今まで以上に学生との交流の機会を増やしていこうと思っています。

一緒に話すこと、一緒に考えること、一緒に歩くこと、一緒に……何でも学生と一緒にがんばることが私の役割だと思っています。これからの合肥生活がもっともっと楽しいものになりますように。

(青年海外協力隊 安徽省合肥市 安徽大学 日本語教師 一ノ関薫)

(2) 最南端の島で日本文化祭を開催!



コスプレで大集合

■勉強熱心な中国の大学生

わたしは2009年1月から中国最南端の島である海南島の海南大学で日本語専攻の学生たちに日本語を教えています。赴任してまず驚いたのが中国の大学生の勉強熱心なところです。

キャンパスにある芝生広場では毎朝6時半ごろから教科書片手に朗読をする多くの学生の姿が見られます。また夜の最後の授業が終わっても教室に残り勉強する学生の姿も見られます。

■祭りのはじまり

赴任したときからそんな学生たちのために何かできないかと思い、思いついたのが日本文化祭の開催でした。

日本文化祭は学科内の各学年の交流を深めることと、日本や日本文化に対する理解



巻き寿司体験も大人気

をさらに深めるということを目的としました。

さっそく学生たちに話すところ有志の学生が集まり各コーナーの担当者や実行委員会が結成され動き始めました。

■浴衣から日本食まで

当日は、1.ゆかた着付けコーナー 2.コスプレコーナー 3.日本の伝統おもちゃ体験コーナー 4.百人一首コーナー 5.日本の貨幣、日本食サンプル等展示コーナー 6.折り紙コーナー 7.日本語クラブによる巻きずし試食コーナー、それに加えて日本クイズ、日本語カラオケ、くじびき、盆踊りなどの活動が行われました。

各コーナーの担当者は自分達のコーナーを日本語で説明できるように資料を調べたり、作成したりしました。そのことは先輩、後輩同士の交流につながっただけでなく日本語のい

い勉強にもなったようでした。

■コスプレが大人気

好評だったのは、やはりゆかた着付けコーナーとコスプレコーナーでした。

当日は34度の猛暑の中で着付けコーナーの担当者たちは汗だくになりながら2時間で60人もの人に着付けをしました。またコスプレコーナーは刀などの小物も用意されており、サムライさながらのパフォーマンスを楽しむ学生もいました。

■大成功のうちに

初めての日本文化祭りの開催でしたが、来場者は200人を超え、日本語科だけでなく他学部の学生や海南省の他の日本語教育機関の学生や先生方、さらに海南大学で中国

語を学ぶ日本人留学生も来てくれていました。

祭りに後に学生たちに感想を聞いたり、アンケートをとったりしてみたところ、「学生生活のいい思い出になった」「いい勉強になった」「日本文化への興味や理解が深まった」「各学年の交流が深まった」という意見がありました。今回の祭りをきっかけとして学生達が日本語を勉強するモチベーションがさらに高まり、来年は学生達から「日本文化祭りをしよう!」という声があがるといいなと思います。

(青年海外協力隊 海南省海口市

海南大学 日本語教師 尾崎みつ子)

人の動き・主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

- ・国際産業連関表作成による統計整備プロジェクト詳細計画策定調査団(6/1~6/5)
- ・山西省雁門関地区生態環境回復及び貧困緩和プロジェクト(6/16~6/29)

(2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

なし

イ. 帰国

- ・長谷部均 チーフアドバイザー
草原における環境保全型節水灌漑モデル事業
(2007.6.1~2009.6.14)
- ・飯島智志 業務調整員
甘肅省 HIV/エイズ予防対策プロジェクト
(2007.6.1~2009.6.30)

<ボランティア>

ア. 赴任:

- ・林 久美子 日本語教師
山東 臨清市第三高校
- ・濱谷 奈々子 看護師
内モンゴル ウランサップ市涼城県人民病院
- ・菊池 早記 看護師
遼寧 鉄嶺中心病院
- ・北所 康一 日本語教師
遼寧 大連市西崗区教育局
- ・清水 美帆 日本語教師
安徽 農業大学外国語学院
- ・矢部 洋平 日本語教師
湖北 民族学院
- ・吉田 百里 日本語教師
寧夏 寧夏大学
- ・川村 美千代 日本語教師
山東 鄆城第二中学校
- ・渡辺 深春 日本語教師
青海 青海大学

- ・ 小西 正仁 日本語教師
湖北 襄樊学院
- ・ 吉田 絵美 日本語教師
湖北 黄冈外国語学校
- ・ 田中 綾子 看護師
貴州 遵義医学院附属病院

(3) 事務所員等の動き

<日本人所員>

ア. 赴任

- ・ 林如子 新人 OJT (2009.6.9)
- ・ 小田 遼太郎 (2009.6.19)

イ. 帰国

- ・ 桑内美智子 (2009.6.26)

<ナショナルスタッフ>

ア. 採用

なし

イ. 退職

なし

イ. 帰国:

- ・ 大森 未奈子 看護師
広西 柳州市工人病院
- ・ 熊倉 亜紀子 日本語教師
遼寧 瀋陽市朝鮮族第一中学校
- ・ 宮村 さおり 日本語教師
遼寧 大連市第三十中学校
- ・ 田中 奈緒美 日本語教師(短期)
寧夏 寧夏大学

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 暁静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICA のホームページ: チマイナ ライブラリー (和文・ 中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チマイナ トピックス (和文・ 中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>